

故事成語「推敲」確認テスト（唐詩紀事） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 イ。「於」は置き字または「において」と読み、ここでは「驢上に於いて（ろばの上で）」と場所を表す。

問2 鳥は宿る池辺の樹、僧は敲く月下の門。／訳すと「鳥は池のほとりの樹に宿り、僧は月の光の下で門をたたく」。賈島の作った対句で、この一句が物語の発端となる。

問3 （字句を）練り直したが、まだ（どちらにするか）決まらなかった。／「鍊」は推敲する・吟味する意。「未だ……ず」は再読文字ではないが「まだ～ない」と訳す否定。

問4 手で門を「推す」しぐさと「敲く（たたく）」しぐさを、実際に身ぶりで繰り返してみせた。どちらの字がふさわしいか体で確かめようとしたのである。

問5 詩や文章の字句を、よりよいものにしようとして何度も練り直すこと。

問6 （例）提出前に作文を何度も推敲して仕上げた。／レポートは推敲を重ねるほど読みやすくなる。（字句を練り直す意味で使えていれば可）

問7 推・敲

問8 賈島が「僧は門を推す」か「僧は門を敲く」かで字句を練り直し迷った故事から、「推す」「敲く」の二字を合わせて「推敲」といい、詩文の字句を何度も練り直し吟味することを意味するようになった。

問9 ろばの上で詩を口ずさみながら、手で物を推したり敲いたりするしぐさを繰り返している賈島の異様な様子。

問10 韓愈（かんゆ）。当時、都長安の長官（京兆尹）を兼ねていた。

問11 （賈島は、字句に夢中になっていて）行列を避けなければならないことに気づかなかった。

問12 「敲」の字がよい（すぐれている）。

問13 （ぶつかったことをとがめるどころか）二人は馬を並べて帰り、何日も一緒に詩について語り合うほど親しい間柄になった、ということが読み取れる。

問14 「僧敲月下門」の句で、門を「推す（おす）」とするか「敲く（たたく）」とするか、どちらの字を用いるべきか迷っていた。

問15 「推」か「敲」かの字句に心を奪われ、心が眼前の現実の外に遊んでいて（神遊象外）、行列を避けることに気づかなかったから。

問16 敲

問17 ① いぶか（る） ② にわか（に） ③ やや（ひさしく）

問18 ① 詩を口ずさむこと。 ② 名残を惜しんでその場（相手）から離れずにいること。

問19 『唐詩紀事』(とうしきじ)。

問20 韓愈(かんゆ)。唐を代表する文章家で、唐宋八大家の一人。

問21 僧敲月下門(「鳥宿池辺樹、僧敲月下門」の下の句)。